えいなん

弥富市立栄南小学校
学校通信　No.５２
令和５年１２月７日

４小学校合同防災キャンプ　１１月２２日（水）

弥富市は地域的に地盤が低く、海が近いため、さまざまな災害が予想されます。その災害が起きたときに『自分達でできること』を考え、地域を守る意識を高めるために６年生が防災キャンプに参加しました。昨年度は大藤小学校と行った防災キャンプでしたが、今年度は令和 10 年度に統合する４小学校（大藤・栄南・十四山東部・十四山西部）で行いました。別の学校の児童の中には「他校と一緒に活動するのはこわいな」と思っていた児童がいたようです。でも、実際に活動した後は「楽しかった」「仲よくなれた」という感想になり、とても有意義な活動でした。

＜日本赤十字奉仕団愛知県支部地域奉仕団による活動＞

まず、米・水をプリンのカップを使って分量を量り、ご飯が炊ける袋に入れ、サツマイモを４個入れます。それを児童が他の体験をしている間に、奉仕団の方が茹でてくれました。そして、豚汁も作ってくれました。とても美味しかったです。

午後は毛布を上着にしたり、大きなビニル袋をポンチョにしたりする体験の他、避難所での生活支援についてお話を伺いました。

＜命を守る仕事：海南病院ＤＭＡＴ＞

ＤＭＡＴとは災害派遣医療チームのことです。実際に熊本地震での救助活動の様子を教えてくださいました。その後、常に準備してある荷物を背負ったり、中身を見たりしました。また、実際に救助に向かう車の説明を受け、上の箇所は寝られるようになっているところを見学しました。

＜心肺蘇生法：海部南部消防組合＞

人工呼吸の方法やＡＥＤの使い方を実習しました。

＜VR 地震体験：(有)アシストコム＞

VR 眼鏡をかけ、地震が起きた時の家具の倒れ方や揺れを体験しました。

＜電気の安全・安心：中電パワーグリッド＞

災害が起きたら、ブレーカーを落とすことを学習しました。

＜災害時応急給水方法：南部水道＞

断水になった時に、水を入れる袋をリュックのように背負える紐の使い方も教えてもらいました。

＜避難所運営：弥富市防災課＞

炊き出し体験が終わってから午後の活動を行いました。午後はくじ引きでグループを決めました。４校が混じっての初めての活動です。災害が起きると避難所にはさまざまな人が避難してきます。例えば、子どものいる家族・高齢の夫婦・ペットを連れた人・若い人等々。そういったさまざまな避難者を体育館のどこに場所を割り当てればよいか、着替えする場所や寝る場所などをどこにするかをシミュレーションし、グループごとに話し合いました。

違う学校の子との交流に初めは緊張していたようですが、同じグループの子同士で仲よく話し合うことができました。最後に全員の前で発表することができました。

地域防災コーディネーター
東嶋とも子氏

今回の防災キャンプ全般のコーディネートをしてくださいました。

＜児童の感想＞

・他校とも交流ができてとてもいいきっかけになった。
・災害のことについて学びながら、他の小学校の子と交流を深められてよかった。
・ブレーカーを落とすのは私でもできる。
・水を運んだり、お年寄りの手伝いをしたりできる。

今回活動した４校の仲間は、弥富中学校で一緒になります。大藤小とは来年度、十四山東部小・十四山西部小の友達とは２年生から一緒に勉強します。交流が図れて本当によかったと思います。

６年児童防災体験
炊き出しなど挑戦
弥富の４小学校合同

大地震に備えようと、弥富市の大藤、栄南、十四山東部と十四山西部の各小学校が22日、合同で6年生児童の防災体験会を同市のTKEスポーツセンターで開いた。

海抜0㍍地帯にある同市では、南海トラフ地震による津波や液状化の被害が予想され、各小学校が訓練を続けている。

この日は4校の6年生計60人ほどが参加。海部南部消防組合の職員から心肺蘇生法を学んだり、海部南部水道企業団の給水車から水は、ビニール袋に米とサツマイモを入れ、袋ごとゆでて米を炊いた。

栄南小の小山優心さん(11)は「学んだことを災害時に生かしていきたい」と話した。（森雅貴）

給水車の水をくむ児童たち＝弥富市のTKEスポーツセンターで

2023年11月23日 中日新聞

令和５年１１月２３日(木)の中日新聞に栄南小学校の児童の写真とインタビューが載りました。